

令和5年度 第3回帯広市社会教育委員会議 議事要旨

- 1 日 時 令和6年2月2日(金) 18:30~20:30
- 2 会 場 帯広市役所 10階 第6会議室
- 3 出席委員 橋本 功、平田 昌弘、鳴海 亮、池田 健一、岸田 智子、野村 勇、
野原 一行、久保田 博己、三浦 真希子、佐藤 康則
(以上10名、敬称略)
- 4 事務局 生涯学習部長 井上 猛、生涯学習文化課長 天池 文彦、生涯学習文化課
生涯学習係長 大橋 由幾、生涯学習文化課生涯学習係主任 加藤 主夫、
生涯学習文化課生涯学習係係員 志垣 直人
(以上5名)
- 5 会議次第
 - (1) 挨拶 帯広市教育委員会 生涯学習部長 井上 猛
 - (2) 議事
 - ① 協議事項 今期の調査・研究について
 - ② 報告事項
 - (3) 閉会

7 議事要旨

- (1) 協議事項 今期の調査・研究について

○事務局

前2年間においては、1つの共通テーマを設けて調査研究を行った。今期においては、事前に調査を希望するテーマや施設等にかかるアンケートを送付させていただいたところであるが、様々な分野を包含可能な、「社会教育」という自由度の高さを活かし、調査研究を進めて参りたい。

については、テーマ案等お持ちいただいている方はお願いしたい。

○委員

知床に、可愛いクマをモチーフにしたキャラクターを町として活用し、観光PRなどを行っている取り組みが興味深い。帯広市ではジバサンダーを随所で見かけることがあり、活動されている方に動機等について、お話しを伺ってみたいと感じた。

○事務局

行政が提供するキャラクターは、行政側の意図について把握できるが、住民主体の

活動が他にもあれば、経過等何うのも面白いかもしれない。

○委員

公共施設においては、百年記念館について確認してみたい。以前は2階に喫茶店があったが、今はなくなってしまい、もったいなく感じる。

また、施設が少し暗いように感じるが、足寄動物化石博物館のように、照明を活用したほうが良くなると思う。又は、明るめのイベント等があれば良いかもしれない。

○事務局

この時期だとロビーにてひな人形展を開催している。以前おびひろ氷まつりの期間中、南極の氷の展示を行っていたことがあり、人気であったことを記憶している。収蔵品を活かしてとなると、民具や美術品中心となると思われるため、明るさを追求するのは難しいかもしれない。

また、常設展示室の改装についても実施したいところであるが、少しずつ更新をかけているものの、予算的な制約もあり、大規模には難しい状況。

○委員

スマートフォン等を活用して、市民の声を届きやすくするシステムが作れないか興味がある。市民が生活の中で、例えば「ここの道路が破損している」、「ここにベンチがあると良い」、「除雪に関する苦情」、「電線の埋設による景観の維持」等、市民が気軽に要望や意見を市に申し入れできるような仕組みについて、我々社会教育側でディスカッションし、提案するのはどうか。

うまくLINEやAI等を使って、こうした要望を整理したり、情報にリーチできたりすると良いと思う。

○事務局

ご提案いただいた場合に、必ずしも行政側が求めているかは別で、体制が整っていないければ活かせないかもしれない。

確認したところ、帯広市のホームページにおいては、市のキャラクターの「しらかんば」が、「ごみの出し方」や「イベント」など、定型の質問に答えるサービスを提供している。ただ、皆さんがご存じでないのであれば、私どもの周知が不足しているということ。

なお、実際の稼働状況は今わからないが、路面状況にかかる通報システムについては、昨年春ぐらいに開始することを伺っていた。

○委員

例えば、不安の中で生活している住民が、そのシステムのアイコンがあれば命が繋がる、市民の心に届くようなシステムがあれば良いと思う。

○事務局

取り組みとしては、そういったシステムの自治体別の提供状況等、自治体の規模にもよるが、比較することは可能かもしれない。

他に案等お持ちの方はいらっしゃるか。

○委員

帯広市に、博物館や美術館があればと思う。札幌市は、博物館や美術館はもちろん、文学館まで持っている。小樽市も美術館を持っており、旭川市も博物館のほか、彫刻の美術館や文学館を持っている。苫小牧市にも立派な博物館と美術館を併設した施設があり、釧路市にも博物館と美術館がある。これらと比べると、帯広市の人口規模からすれば、市民が誇れるような博物館なり美術館があっても良いと思う。

他の自治体の状況を調査の上比較し、帯広市における必要性について訴えたい。

○事務局

確かに、社会教育行政への評価という点では、自治体間の比較は面白いかもしれない。帯広市は体育施設を多く所有しており、また動物園もある。そういった全体の社会教育施設を含めて、比べた方が良いと思う。

また、帯広競馬場においても、馬文化について展示・紹介しており、馬文化の周知のための社会教育的な活動をされている団体もいらっしゃる。

美術館は、道立の美術館を誘致した経過もあり、それらも含めて考える必要がある。

ただ、例えば文学館は帯広市になく、そういった文化的な施設が足りないという実感があるということだと思うので、帯広市の公共施設について、客観的な視点で確認できるかと思う。

○委員

帯広には非常に歴史のある美術団体もあり、彼らが描いた作品は財産として、1人1作品ぐらいは収集してくれたらと思う。絵画だけではなく、焼き物等他にも美術作品も多数存在し、全道的に見れば美術館があるべきだと思う。

○事務局

文化・教養を高めるといったご意見は大切なことだと思う。なかなかこういった資源の積み上げは、公共施設以外も含めると難しい面があるかもしれない。

財政的に厳しい中で、新たな施設の建設について議論することは検討が必要となるが、情報収集したり、まとめた資料を作成していくというのは可能かと思う。

○委員

留辺蘂町にある「山の水族館」はご存じか。周りに海がない中、川の魚を展示しているが、展示手法を工夫されており、自分も年に何回も足を運んでいる。ああいった施設が市街地にあると良い。

○委員

観光とタイアップの上で、市税を投入するも、域外からお金を落としてもらう仕組み。今後人口が減少し、経済が縮小する中で、魅力的な街づくりは大切かと思う。

○事務局

人口が減少する中、新たなハードを単に増やすことは難しいと思うが、ソフト面の話であれば、現在帯広市において、文化・自然体験と観光の掛け合わせとなる、「アドベンチャートラベル」の取り組みが評価を得ている。

具体的には、アイヌの古式舞踊をもとに観光コンテンツを作り上げているところ。

○委員

ヨーロッパでは、地域の古い建物を見て、牧場でチーズを食べ、素敵なところに宿泊するだけではなく、文化的な体験もできるような、イメージーションも観光に必要。農業や歴史など、全体的な流れでお金が落ちる。

○委員

修学旅行生が帯広で農業体験をしていると伺ったが、帯広市としての受け入れ態勢はどうなっているのか。また、修学旅行によって、どの程度の経済効果があるのか。

また、足元における民間企業の取り組みについて、どの程度把握されているか。

○事務局

担当部署ではないことから、把握していない。分野が広がりすぎてしまうと、社会教育委員会会議でのとりまとめは難しいかもしれない。

○委員

スポーツ分野においては、合宿誘致を積極的に働きかけている。他分野においても、そういった誘致活動があっても良い。

○委員

それこそ、先ほど話題になった「アドベンチャートラベル」が該当するのでは。

○事務局

アイヌ文化について体験する取り組みとして、「水辺の楽校」を会場とし、サケの捕獲体験が実施されている。アイヌ文化にかかる取り組みは域内で他にも実施されて

おり、調査するのも良いかもしれない。

○委員

帯広は、程よく色々なものが揃っており、非常に住みやすい街。他の街に優れた部分があるのであれば、それはそこの街に任せて、本当に帯広に必要なのか、ときには捨てる勇気も必要であると思われる。公共施設の中でも、一度も入ったことのない施設もあり、「もう少しこうしたら人が入るのでは」等を検討してみたいと思った。

その他、温泉や食文化に関しても帯広市の特徴だと言える。

○委員

博物館については、PRの仕方だと思う。観光については、確かに経済効果はあるかもしれないが、マイナスの部分もあるかと思う。

課題として感じているのは、町内会の話。高齢化が進む中、どれほど機能しているのか、気になっている。

その他、除雪体制等、私たちの生活に直結していることについても気になっているが、もう少しポイントを絞った上で調査とした方が良く思う。

○委員

町内会について興味がある。加入率も知りたいし、各町内会によってどのような加入促進をしているのか。また、特色ある活動を知りたい。町内会に入る入らないでどのような違いがあるかがわからないから、若者は加入しないと思う。

帯広は意外と若い方が早めに家を持つと思う。若い人たちが町内会についてどのようにとらえているか知りたい。

○事務局

様々なテーマを出していただいたが、社会教育にどうやって結びつけるかが鍵となる。町内会や除雪体制について、社会教育委員会議で取り上げ、良い悪いの議論は難しいと思う。

そこから、社会教育を手段として、加入率に繋げる取り組みや、地域の結び付きを深めるために福祉センターで生涯学習的な施策をやりましょう、等の視点となるのであれば、取り上げることもできるかもしれない。

加入率を事務局において調べてくることは可能だが、それについて社会教育委員会議にて議論をした結果、社会教育行政にどのように寄与されるかが難しいところ。

○委員

地域で活躍する高齢者の生きがい探しを取り扱うのはどうか。仲間を積極的に誘って外に出ることは素晴らしいと思うし、高齢者でもボランティアをされていたり、楽しむ機会はたくさんある。それを肌で感じるような調査も、楽しいのでは。

○事務局

例えば、帯広市では高齢者学級を開設しており、様々な生涯学習を楽しんで活動されている。こうした実態を確認するのも良い。

本日欠席された委員の方から、事前に案を伺っているのでご紹介する。1つ目は、小中学生、高校生を対象とした、社会教育活動を積極的に行っている団体についての調査。2つ目は、帯広市における、世代間交流の実態についての調査。

まとめに入ると、多岐に渡って議論いただき、ここで結論を出すのは難しい。次回の会議にて、テーマや施設等を絞ったり、社会教育との結びつきを含めて集約していきたいと考えているので、引き続きお願いしたい。

(2) 報告事項

研修会への出席等について報告。

〈意見・質問なし〉

以上